

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001626	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	シニアウイル株式会社			
事業所名	シニアウイルおどりば戸塚			
所在地	(245-0061)			
	神奈川県横浜市戸塚区汲沢8-31-18-19			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年7月27日	評価結果 市町村受理日	平成23年9月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所6年目になり利用者の心身のレベルにバラツキが出てきて集団(ユニット)でのまとまった行動が難しくなっているが、生活面においても医療面においても個々の利用者が快適に過ごせるようにしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年8月26日	評価機関 評価決定日	平成23年9月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇事業所の理念である「お一人おひとり、その方らしい笑顔と尊厳を大切にした生活を提供します」を実践するために、集団ではなく個別対応のケアを心がけている。
 ◇管理者の方針である「利用者の日常生活を自然体で支援したい」を職員が理解して実践している。
 ◇敷地内の畑で野菜類を育て、食材として利用し、利用者と職員が喜びを共有している。

【事業所が工夫している点】

◇利用者の重度化が進んでいるため、安全面を考慮して居室内の備品類や日常生活用品を、シンプルに整理整頓している。
 ◇隣接する同法人の小規模多機能型サービスに所属する有資格者職員が、音楽療法をおこなっており利用者も楽しみに参加している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	シニアウイルおどりば戸塚
ユニット名	1階 ばら

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は尊厳・なじみの関係・地域参加・医療との連携を掲げている。特に重度の認知症の方でも常に尊厳が守られるように注意している。	・理念に掲げている「その人らしい笑顔と尊厳を大切に生活」の実践のために、利用者の日常生活の中で身なりなどにも注意と気配りをしている。 ・月初めのスタッフ会議で理念を確認し合い、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、運営推進会議には町内会長や民生委員も出席いただき意見交換をしている。また、地域の祭りや運動会などにはできるだけ参加するように努めている。	・職員が地域の防災訓練に参加するなど日常的に交流している。 ・毎年参加している大丸と隣接する自治会の盆踊りや納涼祭などの地域行事に、今年も利用者が職員と共に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には特に行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実績についての報告や取組みについて意見交換を行っている。得られた意見については、事業所で検討し可能な意見については積極的に取り入れ実践に生かしている。	・運営推進会議は3か月ごとに、地域住民、行政の職員、家族の代表が参加して開催している。 ・家族会代表者から、利用者の要望や意見を提出してもらい、その都度検討して運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区のGH連絡会に参加し、グループホーム間の情報交換をしている。	・区の担当者とは、利用者の紹介などで、その都度連絡を取っている。また、戸塚区のグループホーム連絡会に参加している。	

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを前提にしている。スタッフ会議にて禁止行為の確認をしている。ただし、利用者が不穏状態にあり危険がある場合には、一時的に玄関の施錠をすることがある。	・毎月のスタッフ会議で、身体拘束をしないケアについて、勉強会を行っている。 ・2階の階段で、危険回避のため施錠していたが、家族や職員で話し合い、職員の見守りで対応することとし現在は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には、契約内容等について十分に説明を行っている。また家族の要望や質問についてはきちんと対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別の面会や電話でのご意見はもちろん、家族会や運営推進会議を定期的に行い、オープンに家族等の考えや意見を聞く機会を設けている。なお月に1度の生活状況の報告書は意見をいただき返送していただくようにしている。	・2か月ごとに家族会を開催した折、また運営推進会議で家族の意見や要望を聴取して、内容に応じて運営に反映している。 ・毎月「生活状況表」に、家族の意見を記入してもらい、家族とのコミュニケーションを図っている。	

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議に参加したり、年間の目標やその評価の際に意見を聞いている。また気づきシートを作り毎月の介護や業務提案を積極的に聞くようにしている。	・職員が気付いたことを自由に記載できる「気づきシート」を、その都度作成してもらっている。 ・「気づきシート」で問題になる事項は、全職員が参加する毎月のスタッフ会議で検討し、改善策を実務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金制度を含めたキャリアパス制度を導入。昨年より業務評価制度を導入した。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には必要に応じた研修等に参加するよう指導している。特に常勤者には優先して認知症実践者研修の受講を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高齢者グループホーム連絡会に加入し、職員交換研修を実施し職員の知識向上やネットワークづくりをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。また、入所間もなくは不安が大きいことから、職員とのなじみの関係が作りやすいよう特に積極的に関わるよう支援している。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。また、家族の面会や外出・外泊には制限を設けず、家族との関係づくりを継続していただくよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。家族かには、センター方式に基づいた生活の基本情報シートを記入していただき、入居前の生活ぶりを把握して、問題解決に役立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との距離を近づけるため、利用者とは個別に接する時間をたくさん設け、アットホームな関係を構築するように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月利用者の生活状況報告を送り、感想を送り返していただいている。また家族交流会を年4回度開催し利用者と一緒に昼食を食べていただいたり、意見交換のできる環境を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の拒否が無ければ、家族以外にも、面会はフリーである。また、可能であれば元の生活地域への外出も支援する。	・面会はほとんど家族であるが、知人が訪問してくる利用者もあり、家族の了解を得て、関わりが持てるように支援している。	

シニアウイールおどりば戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や行動を理解し、お互いの行動が相手にマイナスの影響を及ぼさないように、席次や作業グループなど組み立てている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、ターミナルや医療機関入院が多く、その後も関わるケースは少ないが、他の介護施設などに移られた場合は、家族の許可があれば面会にうかがい支援するケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の生活歴や本人の意思・希望に沿ったプランを作るようにしている。意思がよく確認できなければ言葉や行動から希望を導き出すように努めている。	・アセスメントの結果や家族からの情報を得て、利用者の意向に沿うように努めている。 ・利用者の日常の行動や言動を観察し、また利用者との会話から、思いや意向を把握して、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。家族かには、センター方式に基づいた生活の基本情報シートを記入していただき、入居前の生活ぶりを把握して、プランの作成や問題解決に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢、体調、病状、性格等により集団生活への適応が難しいケースについては、その方の生活リズムを保てるよう個別に支援している。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の資料を中心に職員それぞれが個々に利用者をアセスメントし、それぞれの視点・意見を合わせたケアプランを作っている。介護計画は家族・利用者により分かりやすく表記できるよう様式を変更した。	・入居後、家族の協力を得てアセスメントシートを作成し、ケアの課題を明確化して、介護計画を作成している。 ・スタッフ会議や「気づきシート」を活用して3か月ごとに見直し、状況によっては、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は独自の様式を使用し、時間を追って生活を捉えられる様に工夫したり、その方のサイクルに合わせた介護その人の思い・感情・言葉等も記録し、計画の作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常よりゆとりのある職員を配置し、その時々々の要望に対し即時実行可能なものは、都度対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や名所、公園、商店等を把握し、それぞれが興味あることに対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に対する家族の意向は、最初の通院時に家族・スタッフが同行し、主治医に伝えている。その後もほとんどスタッフが同伴で通院し、利用者の変化を伝え、医師の指示をきちんと把握し、適切な医療を受ける支援をしている。	・利用者と家族の意向を尊重して、かかりつけ医か協力医の受診を選択してもらっている。 ・受診の際は、家族の付き添いがあっても、できるだけ職員も同行して、利用者の状況を確認している。	

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の小さな変化を介護職員は見落とさず、状況を看護職員と相談しながら、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院により、精神的な不安が払がらないように生活状況を伝えるとともに、入院中もできるだけ病院を訪問し、治療状況や心身状況を把握し、できるだけ早期に退院し、日常生活に戻れるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に施設の考え方を伝えている。その上で生命にかかわるような心身の変化が見られれば、主治医・本人・家族・職員で都度、意向を確認し、最適な選択ができるよう支援している。	・事業所では、事情が許す限り看取りを支援していく方針であり、看護師が週3回来訪する他24時間連絡が取れる体制を敷いている。 ・職員には、重度化や終末期介護の研修の折、事業所の方針を徹底して、常に対応できるよう職員間で連携をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の緊急対応マニュアルにて確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年は夜間における防災シュミレーションに6名が参加した。東北大震災の教訓から事業所敷地内に水と食料を確保量を増やし有事の際には、地域の高齢者も受け入れる準備を整える予定である。	・職員が、消防局火災予防協会の夜間を想定した外部研修に参加した。 ・地域の防災訓練には職員が参加している。 ・事業所が地域の避難場所となることが想定され、利用者用に加え、住民用の備蓄も検討している。	・職員の研修参加を機会に、消防署の指導と地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の実施が期待されます。

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
祐司の					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての利用者の個性や生活歴を理解し、その方の尊厳を保ち、プライドを傷つけないよう、スタッフがお互いに確認し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の尊厳を第一に、一人ひとりの意思をくみ取るよう声かけを行っている。利用者の誇りを傷つける懸念のある言動には、管理者がその場で注意している。 ・利用者間のトラブルには、職員がさりげなく仲に入って収めている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択しやすいような問いかけをし、本人の意思を引き出すように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは設定しているが、あくまで本人の意思や希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の意思を優先している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力により、食事の準備や片づけをしていただいたり、火気を使用調理は危険のないように一緒にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、野菜の下ごしらえや下膳など可能な範囲で手伝っている。 ・職員は、利用者が同じテーブルで会話をしながら、食事が楽しめるよう配慮している。 ・職員との通院時に、利用者の好みの外食をする場合もある。 	

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体の栄養については、管理栄養士(社外)がメニュー管理をしている。食事や水分量は都度チェックをし、過不足の起きないように支援している。嚥下能力等に応じて、硬さや形態などの調節も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを促し、必要があれば、職員が支援している。希望者には訪問歯科による口腔内クリーニングも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムを掴み、失敗のないように、声かけを行い誘導している。	・運動量の減少とともに全般に排便が困難になっているが、トイレでの自然な排便を目標として、個々の排泄記録に基づき、利用者ごとのタイミングを見計らってトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については、できるだけトイレで自然にできるよう心がけている。乳酸菌飲料で腸内を整えたり、医師・看護職員とも相談し、苦痛のないように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間を自由に設定することはできていないが、個人の状況や希望に応じて衛生状態が保てる範囲で変更している。	・入浴を好まない利用者でも、入浴後のサッパリ感に満足しているので、原則として全員3日に1度は入浴して貰っている。 ・水虫予防を始め、脚の健康促進の目的に、リビングルームでの足浴を併用している。	

シニアウイールおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、昼間は活動的に過ごしていただくことを基本としている。ただし個々に応じ昼間の睡眠時間を設けることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬局との連携を重視し、通院にも職員が同行し、利用者の状況の把握に努めている。看護師により健康チェックをしており、状況の変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みや生活習慣を理解するように努め、個別に満足が得られるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、できるだけ外出希望に沿った対応を努力している。また自治会などの行事があれば、家族の協力も受けながら積極的に外出を支援している。	・介護度が上がり全員での外出が難しくなってきたため、個別に対応している。夏冬でも希望に応じて職員は散歩に付き添っている。 ・地域行事、地区センターでの歌声サロンなどには家族、職員が同伴して参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力を考慮し、家族と相談の上、買い物の範囲や金額を調整し可能な範囲で利用者に委ねている。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚・友人などからの電話は、取り次ぎしている。手紙等は通常の生活と同様にプライバシー保護の元、適切に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るさを保ち誤認が無いように濃い模様や柄は避けながら、季節を感じられるものを掲示したり飾ったりする心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物を口にする利用者もいるため、安全に配慮して、季節感のあるシンプルな飾りを心掛けている。 ・ 利用者全員でのレクリエーションを押し付けず、利用者がそれぞれパズルや歌、お話しを楽しんでいる様子が観察できた。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はできるだけ広く、開放的に設計されており、窓際に椅子やソファを置くなどして、個々に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の認知症の生活レベルに合わせて、居室は本人の使い慣れた家具や装飾品を持ってきていただいている。またレイアウト等も今までの習慣やその方の生活レベルを考えて配置している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の変化に対応して、家族に相談しながら、置物の配置や衣類の種類を変え、居心地良く過ごせるように配慮している。 ・ ベッドは、当初の本人の持ち込み品から、昇り降りが容易な介護用に転換している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーが基本で、かつ見守りしやすくしてあり、できるだけ自立した生活が継続できるようにしている。		

事業所名	シニアウイルおどりば戸塚
ユニット名	2階 さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関の入口に掲げ、職員に周知している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の方々とあいさつ等を交わし、交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実績やそこで話し合ったことを職員に伝え検討し、可能な限り実践に取り込んでいる		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・区のGH連絡会に参加している		

シニアウイルおどりば戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを前提に職員全員に周知するよう伝えている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やその都度口頭で行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には、契約内容等について十分に時間を取り説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置、また運営推進会議にて意見要望を聞き、その結果を全職員に伝え、できることは検討し改善している		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議に参加したり、年間の目標やその評価の際に意見を聞いている。また気づきシートを作り毎月の介護や業務提案を積極的に聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金制度を含めたキャリアパス制度を導入。昨年より業務評価制度を導入した。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には必要に応じた研修等に参加するよう指導している。特に常勤者には優先して認知症実践者研修の受講を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域ケアプラザや高齢者グループホーム連絡会に参加している。実践者研修に参加しサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始段階で家族や本人から意見を伺い、職員が積極的に声かけをし関わるよう努めている。		

シニアウイルおどりば戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人から意向をうかがい、面会中や外出に時間の制限をせず在宅の時の関係を継続できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式のアセスメントを家族に協力していただき、今必要なことをカンファレンスを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に掃除などのお手伝いを行い、共に過ごすように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を定めず、ご家族と共に過ごす時間を作りながら、職員も一緒に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問も家族の拒否が無ければ面会はフリーにしている。		

シニアウイールおどりば戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アセスメント等で利用者を把握し、職員が関与しながら利用者同士も関わりあえるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、ターミナルや医療機関入院が多く、その後も関われるケースは少ないが、他の介護施設などに移るられた場合は、家族の許可があれば面会にうかがい支援するケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当制を作り、ご本人との信頼関係を得て、本当の希望・意向の把握に努めている。意思表示の困難な人には言葉や行動に注意して導き出すように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期開始時よりご家族に聞きながら本人の生活環境等の把握に努めセンター方式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、記録やアセスメントで現状の心身状態の把握に努めている。		

シニアウイールおどりば戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを利用し各職員が各項目のカンファレンスを行い全員でケアプランを作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は時間を追って記録しアセスメントに活用。介護計画の作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況にすぐに対応できるように職員の配置にゆとりを持たせ、都度柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や公園、商店街での買い物などそれぞれの興味に合せている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診にはほとんど職員が同行し、家族とかかりつけ医の関係を維持できるようにサポートしている。また利用者の変化を伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。		

シニアウイロおどりば戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から顔色や表情などを見落とさず、変化があれば看護師と相談しながら、健康管理を実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院の医師・看護師に生活状況を伝え、ご家族・ご本人が安心できるように入院中もできるだけ面会にうかがっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人の意向を伺いながら希望に沿うように話をし、できないことを職員と共に話し合い支援できるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの再確認をし、職員同士で確認し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎年行っている。地域との協力体制は特にない。		

シニアウイロおどりば戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
祐司の					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を把握しプライドを損なわないよう職員同士が都度口頭で確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が出せるよう選択肢が広がるようかけに務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や意思を尊重してその日を過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の能力に応じて食事の準備や片付けをしている。特に昼食やおやつ作りにはみんなで参加している。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のメニューにて食事量や水分量をその都度チェックをし口腔内や嚥下能力に応じ大きさや硬さを調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを促し1人でできない方は職員が支援している。また希望者には訪問歯科の受診を受けていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムを把握しながら声かけを行い失敗のないように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳酸菌飲料を飲んだり、水分を多く取ることで自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午後に、個々の状況や希望に応じて行っている。拒否のある時は翌日や時間のタイミングをはかって支援している。		

シニアウイールおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のないよう日中はできるだけ活動していただいているが、昼寝も個々に応じて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護師・薬局と連携をとり通院も職員が同行し薬の作用・副作用等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みに応じ、できるだけ満足のできるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望により散歩や外出に出かけられるように努めている。また家族と一緒に近隣に出かけたりできるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員側でおこなっており、買い物の時は財布からご本人が出して支払いできるように努めている。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望や訴えはないものの希望があれば、対応できるようにしている。家族や親戚などからの電話を受けることを制限していない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な明るさを保ちながら、利用者さんと一緒に作切り絵等を季節が感じられるよう壁に掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いろいろな所・窓側などにソファや椅子を置き、自由に行き来しながら過ごせるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に使い慣れたものやタンス等を持ってきていただき居心地のよさに務め、レイアウトも本人・家族と相談しながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで壁やトイレには手すりを付けできるだけ自立した生活ができるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 シニアウイルおどりば戸塚

作成日 平成 23年 9月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間における避難訓練が、実施できていない。	夜間1人体制における避難訓練を、早急に行い利用者の安全確保に役だてる。	消防計画に基づいて、訓練計画を作成し、消防署の協力のもと、避難訓練を実施する。	1年
2					
3					
4					
5					